

コード No. 20-S-009

提出日：令和 2 年 12 月 22 日

令和 2 年度「レバノン・バイルートの難民キャンプにおけるパレスチナ難民世帯への食料支援」報告書

特定非営利活動法人パレスチナ子どものキャンペーン

田浦久美子

1. プログラムの目的

国際機関やその他団体の支援からもこぼれてしまっているレバノンに暮らすパレスチナ難民世帯に対し食料緊急支援を行い、難民の命を守り、人々が安心して避難生活を送れるよう、また育ち盛りの子どもたちの成長を支える。

2. 主な活動内容・スケジュール

2020 年 7～8 月に、バイルートのパレスチナ難民キャンプ（シャティエラ、ブルジバラジネ、マールエリヤス）に暮らすパレスチナ難民 1,000 世帯に、1 世帯あたり 30USD 相当の食料パッケージを配布した。食料パッケージの調達にあたっては、現地提携団体（NISCVT/National Institution of Social Care and Vocational Training）と連携し、難民キャンプの中やキャンプ周辺にある食料品販売店舗複数社から見積もりを取り、食料品の価格や品質を考慮したうえで行った。食料パッケージの中身は、栄養バランスや保存性、当会が過去に食料配布を行った際の現地の人々の声や食文化を考慮し、決定した。以下は、シャティエラ難民キャンプで配布した食料パッケージの中身である。

食料品	数量
ツナ缶	160g
パスタ	1kg
砂糖	1kg
米	900g
トマトペースト	800g
紅茶（25 ティーバック入り）	1 箱
サラダ油	800ml
レンズ豆	900g
レンズ豆（ひきわり）	900g
ミルク	750ml
ハラワ	2
チーズ	400g
ブルゴル	1.8kg
タイム	1 袋
タヒーニ（ゴマのペースト）	300g

アプリコットジャム	700g
-----------	------

食料配布時と配布後には、当会職員と現地提携団体職員（ソーシャルワーカー）が聞き取り調査を行った。

3. 助成を受けた活動の報告（様子がわかる写真等があれば貼付してください）



配布した食料パッケージの一例



食料受け取りのサインをする
受益者



当会職員より食料を渡す様子

4. 活動の成果（成果物などがありましたらご紹介ください）

昨年以降、レバノンでは現地通貨レバノンポンドの対米ドルの価値がおよそ6分の1にまで下がった。それに伴い、多くの生活用品や食料品を海外からの輸入に頼っているレバノンでは、物価が

高騰し、食品の価格も4倍から6倍程になっている。今回配布を実施したベイルートでは特に物価の高騰が激しく、食料を受け取った人からは「肉類や魚類、乳製品を買うのはとても高く、もうしばらくそういったものを子どもに食べさせてあげることができていない。」「今回の支援で久々にツナ缶や乳製品が食べられる。」という声が多く聞かれた。肉類や乳製品は栄養分が多く含まれており、特に子どもの成長には欠かせないが、子どもを持つ親の多くが、今後子どもたちが健康に成長していくことができるのか非常に不安を感じている。配布時と配布後の聞き取り調査によると、世帯の人数や構成によってばらつきはあるものの、食料パッケージを受け取った難民世帯（5～6人という世帯が多い）は、平均1週間から10日分程度の食料を確保することができ、本活動が難民世帯の食料不足を補うこと、そして、子どもたちの栄養状態の改善の一助となったと言える。

5. 今後の課題

本活動中の2020年8月4日にベイルートで大規模爆発が起こり、それ以降新型コロナウイルスの感染が急拡大するなど、人々の生活はさらに厳しくなっている。レバノンでは国内人口に対する難民の割合が最も高い国であり、レバノンに暮らす多くのパレスチナ難民にとっては、UNRWA（国連パレスチナ難民救済事業機関）が唯一の拠り所であるが、UNRWAは慢性的な資金不足に悩まされており、支援の規模は年々減少している。また隣国シリアで続く危機状態や、昨今のレバノンの経済危機の影響により、レバノン国内で活動する支援団体の中には、次第にパレスチナ難民の支援から遠ざかり、シリア人難民や脆弱なレバノン人向けの支援を優先せざるを得ない団体も多い。

難民の人々からは、新型コロナウイルス感染拡大や失業、物価高騰により、以前に増して不安や絶望感を抱えたり、「自分たちは世界から取り残されている」と感じているという声も聞かれ、現地提携団体のソーシャルワーカーからは、家庭内暴力や子どもへの虐待も増えていると報告がある。本活動では、こうした他からの支援から取り残され、今日・明日の暮らしに困難を抱えるパレスチナ難民に光を当て、命を守るうえで何よりも必要な食料を届けることができた。また、食料を受け取った多くの人から、「世界中みんなが大変な中、遠い日本から私たちのことを気にかけてくれてありがとう。」という声をいただいた。本活動の食料配布はレバノンのパレスチナ難民の命を守る一助となっただけではなく、現地の人々に「自分のことを気にかけてくれる人がどこかにいるのだ」ということを感じてもらい、人々が明日を生きる希望となったのではないかと思う。

当会では引き続き、命を守る支援として、ベイルートやレバノン北部、南部、山間部に暮らすパレスチナ難民世帯へ食料支援や冬場の燃料支援を継続していく。また、食料や燃料の配布といった緊急支援と同時に、子どもたちやその家族の現在と将来を支える支援として、現地提携団体とともに、教育支援や医療支援、心理社会的サポートを継続していく。

今後も難民の人々の日々の暮らしや人生に寄り添い活動を継続していきたいと思っておりますので、ご支援をよろしくお願いいたします。